



## 土木学会・日本建築学会の協働TF

### 土木・建築の社会価値および 連携の方向性WG

主査：今村文彦（土木），幹事；田中麻里（建築）  
2024年12月9日

土木・建築一連携の深化を求めて 2024年12月9日

## 0. 土木・建築の社会価値および連携の方向性WG委員

### 土木学会

- 今村文彦(副会長・TF委員長・主査:東北大)
- 上田多門(深圳大)
- 中村光(名古屋大)
- 加藤佳孝(東京理科大)
- 羽藤英二(東京大学)
- 蒔苗耕司(宮城大)
- 真田純子(東京科学大)
- 小林將志(JR東日本)
- 三輪準二(土木学会事務局)

### 日本建築学会

- 広田直行(副会長・TF委員長:日本大)
- 田中麻里(幹事:群馬大)
- 清家 剛(東京大)
- 野口貴文(東京大)
- 岡崎太一郎(北海道大)
- 松本亨(北九州市立大)
- 瀬田史彦(東京大学)
- 久田嘉章(工学院大)
- 池田靖史(東京大学)
- 大橋竜太(東京家政学院大学)
- 小野田泰明(東北大学)
- 小野寺篤(建築学会事務局)

## 0. 社会価値・連携WGのタスク

- 土木・建築それぞれの分野の文化・歴史的背景，現在の活動状況を踏まえ，社会的な価値、将来の価値観を共有しながら，連携の意義や方向性を議論し提案する。
- アンケートWGのアンケート結果分析も含める。

## 1. 土木学会の基本理念・役割



- 学会は、土木工学の進歩及び土木事業の発達並びに土木技術者の資質の向上を図り、もって学術文化の進展と社会の発展に寄与することを目的とする。  
(定款より)
- 自然に対する畏敬の念を持ち、美しく豊かな国土と持続可能な社会づくりに貢献します
- 台風が常襲し、地震が多発する、我が国の厳しい自然条件下で、これら自然災害から人の暮らしを守り、社会・経済活動を支える基盤をつくとともに、良質な生活空間を実現するため、土木技術はその中心的な役割を果たしています。この土木技術を学問として体系的に支えているのが土木工学です。
- 土木学会は、1914年11月に社団法人として設立され、2011年4月には公益社団法人に移行しました。  
(ホームページより)

# 1. 日本建築学会の基本理念・役割



- この会は、会員相互の協力によって、建築に関する学術・技術・芸術の進歩発達をはかり、もって社会に貢献することを目的とする。  
(定款より)
- 一般社団法人日本建築学会は、会員相互の協力によって、**建築に関する学術・技術・芸術の進歩発達をはかる**ことを目的とする学術団体です。1886年（明治19年）に創立されて以来今日にいたるまで、わが国建築界においてつねに主導的な役割をはたしてきました。

(ホームページより)

## 2. 社会価値，その創造とは

- 社会価値とは、事業や活動によって**生み出される社会的・環境的な変化や効果**。
- 特に、社会課題を解決することで新たに生み出される価値。
- さらに、
- 社会価値を創造するには、**社会問題を解決**するだけでなく、その先に**新たな価値を創造**する事業に取り組む必要。
- 特に、サステナビリティ（持続可能性）、技術的可能性、経済的可能性、社会への浸透による生活水準の向上などの視点から、多面的に価値を分析して評価する必要。

## 2. 土木分野と建築分野の違い；連携強化のために

- 対象
  - 自然環境, 社会環境, 人工環境
- 所有者・ユーザー
  - 個人か, 公共か
- 法令の違い。
  - 個人資産で財産権が絡み最低基準か、公共施設か
- 両分野の背景の違いにより、行政も分割されている。
- その為、許認可、指導等も土木と建築で別。

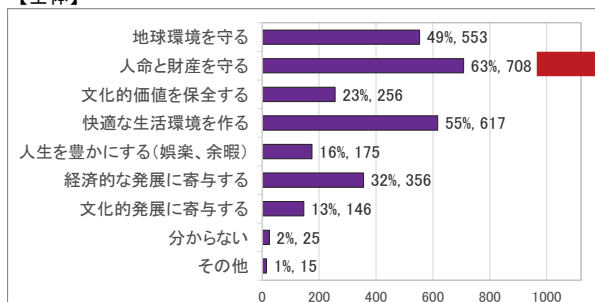
土木・建築一連携の深化を求めて 2024年12月9日

7

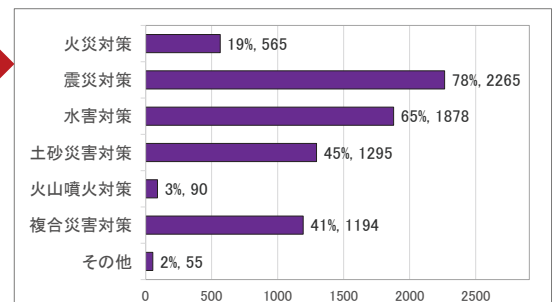
## 2. 土木・建築合同アンケート結果より

7-4.  
土木と建築が連携して取り組むべき課題  
(3つまで選択可)

【全体】



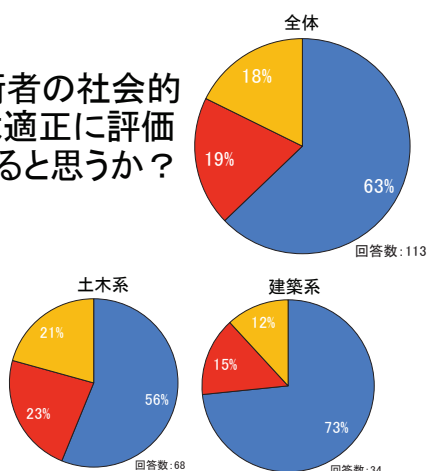
7-5.  
『人の命と財産を守る』ために、土木  
と建築が連携して取り組むべき課題  
(3つまで選択可)



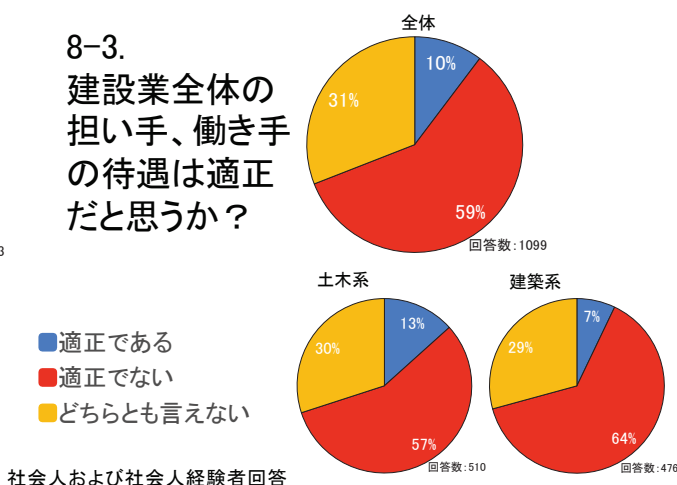
- 人の命と財産を守る→震災対策、水害対策、土砂災害対策、複合災害対策
- 快適な生活環境を作る→？

## 2. 土木・建築合同アンケート結果より

8-4.  
建設技術者の社会的な地位は適正に評価されていると思うか？



8-3.  
建設業全体の担い手、働き手の待遇は適正だと思うか？

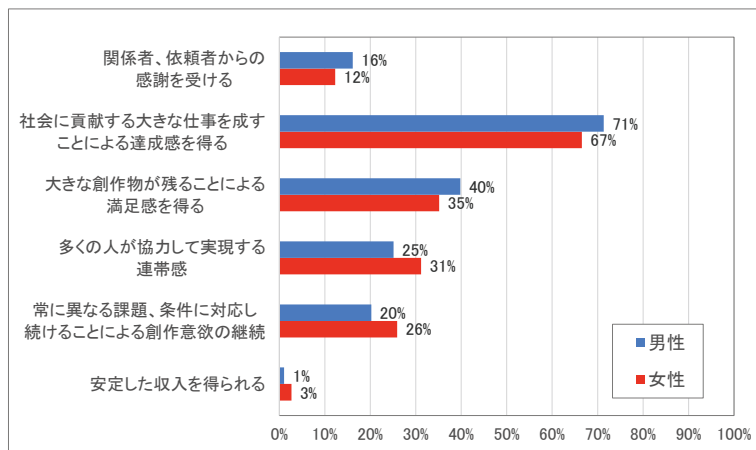


社会人および社会人経験者回答

- ・社会的な地位は適正、待遇は適正ではない
- ・→待遇改善のために 給与水準の向上67%、長時間労働の是正37%

## 2. 土木・建築合同アンケート結果より

4-2.土木工学(あるいは土木技術者)、建築学(あるいは建築設計者・技術者)の魅力(2つまで選択可)



・全体 性別別 現在の立場別回答(学生・社会人および社会人経験者)

- ・社会貢献する大仕事への達成感
- ・大きな創作物が残る満足感
- ・多くの人が協力して実現する連帯感
- ・課題や条件に対応し続ける創作意欲の継続

→多様な魅力をアピールしていく

### 3. 国内での関係・役割

例えば、国土交通省

- 国土交通省は、**国土の総合的かつ体系的な利用、開発および保全、そのための社会資本の総合的な整備**、交通政策の推進、気象業務の発展並びに海上の安全および治安の確保などを担う官庁
- 建築に関わるもの
  - 不動産・建設経済局， 都市局， 住宅局
- 土木に関わるもの
  - 水管理・国土保全局， 道路局， 港湾局， 鉄道局， 航空局

### 国内関係

- 環境省， 農林水産省， 経済産業省，
- 関連学会
- 関連団体 一般社団法人 日本建設業連合会

## 4. 国際社会での関係・役割

SDG'sを考えると

- **土木と建築の差はない。**
- 木材、鉄とコンクリートを大量消費している同様の分野。廃棄物のくくりとしては同じ。
- 環境を守るためには、土木・建築同じ方策を取りうる。



## 4. 国際社会の中の日本

- 国際的な建築と土木に対する社会価値に対応のために、建築と土木という境界を超えた対応が必要
  - ISOへの対応など、世界の分類と日本の土木・建築の分類は必ずしも一致していない。
  - 例えば、多様な災害に見舞われているわが国の技術は、土木・建築連携して世界に貢献できる。

# 5. 今後の検討

土木・建築一連携の深化を求めて 2024年12月9日

## 5. 学会の役割と背景

- 議論；
- 土木学会・日本建築学会は、国内有数の学術団体として、社会ニーズが高まり、逼迫した状況になる前に、**半歩先を見越して学術的な見解と方向性を用意すべき。**
- その観点からは、もはや**社会の状況は待たなし。**
- 両学会のアンケート結果から、具体的な必要性の認識に至っている人はあまり多くなく、こういった**考え方の共有の促進と人材の育成**も両学会に課された課題。

土木・建築一連携の深化を求めて 2024年12月9日

16



# 5. 外部からのご意見集約

- 関係者（国内外）；誰に？（学会，行政，民間，・・・）
- 留学生など
- ご意見内容；関係，期待，・・・
- ご意見のいただき方

土木・建築一連携の深化を求めて 2024年12月9日



06 特集

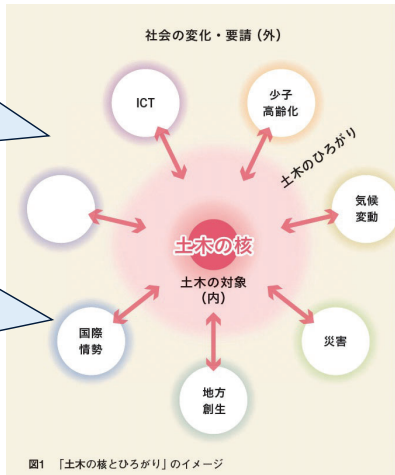
## 土木学会創立110周年記念号 —土木の核とひろがり—

110th Anniversary Edition of Japan Society of Civil Engineers

08 2010年以降の主な出来事

大きな時代の変化や  
多様化の中で、  
変わるべきもの  
普遍的なもの（核）  
が議論

- 土木の核と広がり
1. 未来への想像と伝え続けること
  2. 伝わる土木・伝える土木
  3. 選奨土木遺産（過去）とデザイン賞作品（現在）＝>未来



土木・建築一連携の深化を求めて 2024年12月9日

### 特別企画 土木との接点をデザインする

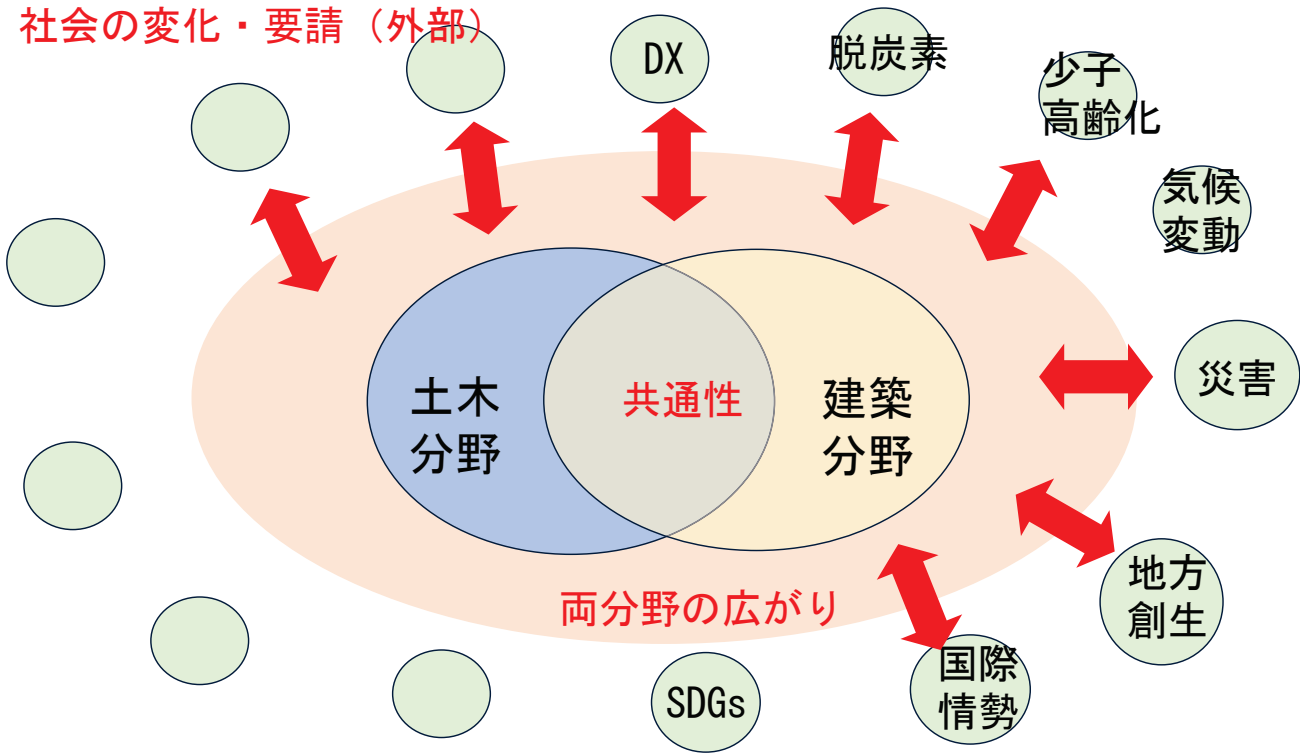
110周年から10年 土木には時代の変化に合わせた様々な生活を支えるインフラとしての価値がある。その一方で、土木の核と広がり、そして、特別企画として、土木との接点をデザインする。土木との接点をデザインする。土木との接点をデザインする。

土木の核と広がり、そして、特別企画として、土木との接点をデザインする。土木との接点をデザインする。土木との接点をデザインする。

土木の核と広がり、そして、特別企画として、土木との接点をデザインする。土木との接点をデザインする。土木との接点をデザインする。

創立110周年記念号 —土木の核とひろがり  
土木学会誌2024年11月号

# 社会の変化・要請（外部）



## 2010年以降の主な出来事

2010年以降の日本国内の土木に関わる主な出来事に加えて、世界情勢、国内の社会情勢にまつわる出来事を年表として整理した。

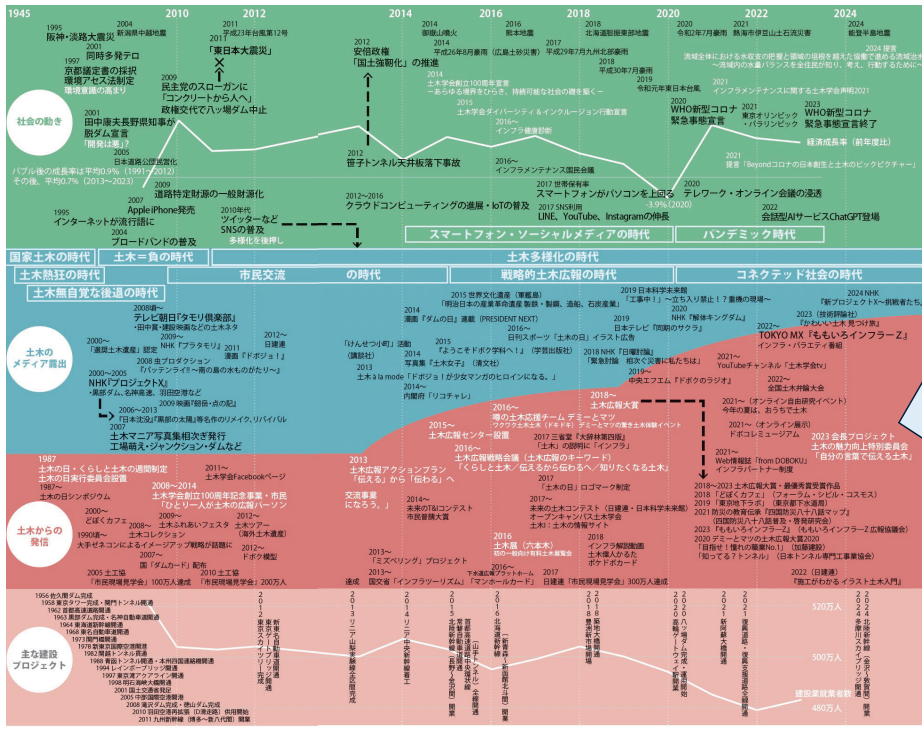
2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
<ul style="list-style-type: none"> <li>●「新しい公共」宣言</li> <li>●高度成長期から社会実装</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高層ビル建築法改正・施行（68層までの高層建物の建築）</li> <li>●東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定</li> <li>●インフラシステム輸出拡大を促すため</li> <li>●民主党から自民党へ政権交代</li> <li>●建設投資が増加傾向へ転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「新しい公共」宣言</li> <li>●高層ビル建築法改正・施行（68層までの高層建物の建築）</li> <li>●東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定</li> <li>●インフラシステム輸出拡大を促すため</li> <li>●民主党から自民党へ政権交代</li> <li>●建設投資が増加傾向へ転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高層ビル建築法改正・施行（68層までの高層建物の建築）</li> <li>●東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定</li> <li>●インフラシステム輸出拡大を促すため</li> <li>●民主党から自民党へ政権交代</li> <li>●建設投資が増加傾向へ転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高層ビル建築法改正・施行（68層までの高層建物の建築）</li> <li>●東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定</li> <li>●インフラシステム輸出拡大を促すため</li> <li>●民主党から自民党へ政権交代</li> <li>●建設投資が増加傾向へ転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高層ビル建築法改正・施行（68層までの高層建物の建築）</li> <li>●東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定</li> <li>●インフラシステム輸出拡大を促すため</li> <li>●民主党から自民党へ政権交代</li> <li>●建設投資が増加傾向へ転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高層ビル建築法改正・施行（68層までの高層建物の建築）</li> <li>●東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定</li> <li>●インフラシステム輸出拡大を促すため</li> <li>●民主党から自民党へ政権交代</li> <li>●建設投資が増加傾向へ転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高層ビル建築法改正・施行（68層までの高層建物の建築）</li> <li>●東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定</li> <li>●インフラシステム輸出拡大を促すため</li> <li>●民主党から自民党へ政権交代</li> <li>●建設投資が増加傾向へ転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高層ビル建築法改正・施行（68層までの高層建物の建築）</li> <li>●東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定</li> <li>●インフラシステム輸出拡大を促すため</li> <li>●民主党から自民党へ政権交代</li> <li>●建設投資が増加傾向へ転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高層ビル建築法改正・施行（68層までの高層建物の建築）</li> <li>●東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定</li> <li>●インフラシステム輸出拡大を促すため</li> <li>●民主党から自民党へ政権交代</li> <li>●建設投資が増加傾向へ転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高層ビル建築法改正・施行（68層までの高層建物の建築）</li> <li>●東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定</li> <li>●インフラシステム輸出拡大を促すため</li> <li>●民主党から自民党へ政権交代</li> <li>●建設投資が増加傾向へ転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高層ビル建築法改正・施行（68層までの高層建物の建築）</li> <li>●東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定</li> <li>●インフラシステム輸出拡大を促すため</li> <li>●民主党から自民党へ政権交代</li> <li>●建設投資が増加傾向へ転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高層ビル建築法改正・施行（68層までの高層建物の建築）</li> <li>●東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定</li> <li>●インフラシステム輸出拡大を促すため</li> <li>●民主党から自民党へ政権交代</li> <li>●建設投資が増加傾向へ転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高層ビル建築法改正・施行（68層までの高層建物の建築）</li> <li>●東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定</li> <li>●インフラシステム輸出拡大を促すため</li> <li>●民主党から自民党へ政権交代</li> <li>●建設投資が増加傾向へ転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高層ビル建築法改正・施行（68層までの高層建物の建築）</li> <li>●東京2020オリンピック・パラリンピック開催決定</li> <li>●インフラシステム輸出拡大を促すため</li> <li>●民主党から自民党へ政権交代</li> <li>●建設投資が増加傾向へ転換</li> </ul>

10年を振り返る  
人・社会（外）  
自然・環境（外）  
技術

10年を振り返る  
人・社会（外）  
自然・環境（外）  
技術

創立110周年記念号 一土木の核とひろがり  
土木学会誌2024年11月号

土木・建築一連携の深化を求めて 2024年12月9日



**国家土壌の時代 (1945-1956)**  
**土壌熱狂の時代 (1956-1973),**  
**土壌無自覚な時代 (1973-1995)**  
**土壌=負の時代 (1995-2011)**  
**土壌多様化の時代 (2011-)**

**戦略的土壌広報の始まり**

**2013 伝わる土壌・伝える土壌**  
**2016 暮らしと土壌, 知りたくなる土壌**  
**2023 土壌の魅力向上「自分の言葉で伝える土壌」**

小松氏 土壌広報不毛時代からの脱却  
 土壌学会誌2024年11月号

図1 土壌の発展年表 (土壌学会誌2014年11月号特集担当班「Team-Media」作成「土壌のイメージ発展年表」を基に改定・追加)